

1. ワークの制作動機・目的

ことばのテーブルの教材集は、これまで主に発達障害の児童向けのものとして制作してきました。しかし、ことばのテーブルにおいて、学習者の平均年齢が次第に高くなり、より年長者向けの教材を作る必要が出てきたことが、今回のワークのいちばんの制作動機です。テキストは、中学生～成人の学習者を主たる読者として、テーマや内容を設定しました。また、使用することばにも、慣用表現や漢語を多く用い、それらに触れることも学習目的としました。◆年長者向けの教材を制作したもうひとつの動機は、日本国内における外国とつながる児童の増加です。現在、幼児～高校生の日本語を母語としない子どもに対する日本語教育が急務となっていますが、その中でも、とくに年齢の高い子どもたちは、第2言語習得の年齢的な厳しさに加え、日本の文化や社会的事項に対する経験の乏しさ、というハンディを背負っています。「生活ストーリー読解ワーク」は、それらの子どもたちに、読解学習と併せ、“日本のよくある事柄”を知る機会、として使っていただくことも目的としています。

2. 解答例について

これまで、ことばのテーブルの読解ワークには、解答例をつけていませんでした。その理由は、主に以下の3点です。

- (1) 発達障害の児童向け教材であり、答え合わせ(解答の教示)は指導者(家族も含め)が行う(行える)、と考えたため。
- (2) 読解問題の解答は、本文(テキスト)からの抜き出しが中心の平易なもので、家族・指導者にとって教示が容易と考えたため。
- (3) 発達障害の子どもの学習において、読解問題の解答はあくまで“解答例”であり、取り組む子どもの能力段階や発達特性などに合わせて、柔軟に正答の範疇を変えて行くべきだと考えているが、解答例を付けた場合、その答え方でなければいけない、と指導者(もしくは学習者)に受け止められる可能性がある、と考えたため。

※100枚プリント第7集「おはなし読解ワーク:上級編」添付の“解答について”も参照のこと。

しかし、これまでの教材と異なり、今回のワークには解答例を付けました。それは、以下の理由によるものです。

① 比較的年齢が高い学習者を対象とした教材であり、独習をするケースが考えられるため。教材の導入・提示は家族や指導者からであっても、学習は、学習者が一人で行う場合、答え合わせのための解答例が必要となるため。

* ことばの学習を希望される方が、自らこのワークの購入を決め、独習することもあると思います。その場合、いまこの文章を読まれているのが、学習者の方ということも考えられます。 ということでは…

学習者の皆さん。解答例を参考として、少しずつ学習を進めていただければと思います。また解答については、以下の文章も、ぜひお読みください。



② 設問のひとつに、三択の単語選択問題が設定されているが、とくに慣用表現や漢語については、既得の日本語知識がなければ判断することが困難であり、正答を明示する必要があったため。

★ 解答例に記載されている答え以外にも、解答となり得る表現は様々あります。No.53「玉子焼き」の設問4を例にとると、解答例では「まだまだ時間がかかりそう」と、本文を抜き出したものになっていますが、もうすぐできるか否かを問う YES-NO 質問でもあるので、解答者の判断としての「いいえ」という答えも考えられます。同様に、解答者自身のことばとして「まだ時間がかかる」のような表現も考えられますが、「～そう」という推測のニュアンスもあったため、話しの語り手のことばを解答例としました。他の問題の設問においても、解答として複数の表現が考えられる場合があります。【解答表現は、物語の語り手、登場人物、出題者、そして解答者の四者の視座に関わる難しい問題ですが、「読み」とは何かを考える上で重要な手がかりになるものです。読解問題を作成する作業を通して、今後もこの問題について考えて行きたいと思っています。】